

The fashions of London & Paris, 1798～1809. 4 vols. London, Printed for R. Phillips & Sold by all Booksellers. 21.5×13.5cm <383. 13-F-1～4>

Hiler p. 306 Colas 1042

本誌の最初のプレートは1798年3月に出されている。雑誌といっても、はじめは月3枚のファッション・プレートが継続的に販売されていたらしく、プレートに配本番号が付いており、この番号順に3年単位で事後製本の形態をとっている。第1巻の冒頭には「現下のロンドンとパリで流行している最もファッションナブルな婦人服を収集、記録した。本誌の特徴はおしゃれをして集まる舞踏会や園遊会、それに貴婦人達が入り出る宮廷やサロンで着用されたドレスを明示した。……最初の巻は3年間、37回の配本分を対象に、美装製本したものが3ポンド、モロッコ皮の豪華製本が3ギニという廉価で販売する」などの広告が付いている。各号3枚のプレートのうち、2枚はロンドン、1枚はパリのファッションで、初期のものの中には *Journal des dames et des modes* (108) から採録したものもある。当時、著名なハミルトン嬢やレカミエ夫人の肖像画も見られる。

本館所蔵のものは4巻から成り、各巻は以下のような収録となっている。

1巻 1798年3月～1801年2月(1798～1800)、2巻 1801年3月～1804年2月(1801～1803)、3巻 1804年3月～1806年2月(1804～1806)、4巻 1807年2月～1809年12月(標題紙なし)
括弧内の年代は標題紙と背にある年代であるので、実際の収録年とは多少ずれがみられる。(注・背のタイトルは *Costume of ladies of England* となっている) Colas 及び Hilar の目録では、創刊は本館のものと同年であるが、全3巻で、最終収録は1806年までとなっており、1807年からは *Records of fashion and court elegance* (102) に継承されると記されている。また、V. Holland 著 *Hand coloured fashion plates 1700～1899* の中でも同様の記述がみられる。こうしてみると、本館の4巻目は稀少なものではなかろうか。この4巻には標題紙はなく、解説編も1から3巻までは製本の前頭部にまとめられているが、この巻は末尾にしかも粗悪紙で付けてある。しかし解説文には各号明確に *Fashion of London & Paris* と書かれてあり、本誌に間違いはない。本館は幸いにも前述の *Records of fashion* も所蔵しているが、これは別冊の形で刊行されたのではないかとも思われる。

本誌は1798年からほぼ10年間刊行されたが、この期間はモード史上においても極めて重要で興味深い時代であった。イギリスでは産業革命により市民階級が台頭して近代化へとさまざまな変革がもたらされた。服装史上においても、変化はかつてない程顕著に現われており、豪華な衣装から簡素化へと服装の様式を変えていった。それは身体にそった筒型のドレスで、いわゆるシュミーズドレスと称せられた、自然でゆったりとした古代風の衣装が再現された。フランスでもこのシュミーズドレスは新しい服として貴婦人の間で人気を得た。イギリスと同様に

織物工業の技術的進歩により薄地の布の生産が可能になり、薄いモスリンやチュールなど軽く柔らかい布地が用いられた。1800年を過ぎるとナポレオン治世の繁栄のもとで、単調な衣装に加えて装飾用のスカートが流行し、羽毛やリボンで飾った帽子や髪飾り、宝石をちりばめた腕輪や首飾りなどのアクセサリが愛好された。レースやカシミアのショールもローブの引き立て役として重要な装飾品であった。(平井)



第1巻の扉